

農業総合センター農業試験場試験研究課題 中間評価票

番号	21-中間-1	課題名	1. 胚培養を主体とした育苗法によるナス用台木新品種の育成		
期間	9年度～継続	担当部課室	野菜・花研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点 (人)	評価結果 (平均点)
目標達成可能性	5 : 計画を大きく上回って進んでいる。 4 : 計画を上回って進んでいる。 3 : 計画どおりに進んでいる。 2 : 計画より遅れている。 1 : 計画より大幅に遅れており見直しが必要	1 1 4	3.5
	5 : 阻害要因はなく計画以上の成果と進捗が期待できる。 4 : 阻害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3 : 阻害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2 : 阻害要因が発生している。 1 : 阻害要因が発生しており見直しが必要	4 2	3.7
必要性	5 : 著しく高まっている。 4 : 高まる傾向にある。 3 : 変化していない。 2 : 減少傾向にある。 1 : 著しく減少又は認められなくなっている。	3 3	4.5
有効性	5 : 著しく高まっている。 4 : 高まる傾向にある。 3 : 変化していない。 2 : 減少傾向にある。 1 : 著しく減少又は認められなくなっている。	2 3 1	4.2
効率性・妥当性	5 : 著しく効率的に実施できている。 4 : 効率的に実施できている。 3 : 計画どおりに実施できている。 2 : 課題が生じている。 1 : 課題が生じ見直しが必要	3 3	3.5
総合評価	5 : 優先的に継続することが適当 4 : 継続することが適当 3 : 計画変更して継続することが適当 2 : 継続の必要性が低い。 1 : 中止すべきである。	3 3	4.5

助言・指摘事項等

- ・岡山県特産の「千両ナス」ブランドを維持するには、地域に適した青枯病抵抗性優良台木の育成は欠かせない。進捗状況からみて新品種が育成できる可能性は高く、必要かつ有益な研究であり継続実施が必要である。
- ・独法研究機関等で開発された有望台木も積極的に活用し、早期に生産者に普及できる台木が育成されることを期待する。
- ・大量に台木を低コストで供給できる技術やシステムを開発し、育成した台木を早急に普及させることが必要と思われる。

評価項目：5から1でのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 中間評価票

番号	21-中間-2	課題名	2. 遺伝子診断による病害虫防除		
期間	19年度～継続	担当部課室	野菜・花研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点 (人)	評価結果 (平均点)
目標達成可能性	5 : 計画を大きく上回って進んでいる。 4 : 計画を上回って進んでいる。 3 : 計画どおりに進んでいる。 2 : 計画より遅れている。 1 : 計画より大幅に遅れており見直しが必要	4 2	3.7
	5 : 阻害要因はなく計画以上の成果と進度が期待できる。 4 : 阻害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3 : 阻害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2 : 阻害要因が発生している。 1 : 阻害要因が発生しており見直しが必要	4 2	3.7
必要性	5 : 著しく高まっている。 4 : 高まる傾向にある。 3 : 変化していない。 2 : 減少傾向にある。 1 : 著しく減少又は認められなくなっている。	2 4	4.3
有効性	5 : 著しく高まっている。 4 : 高まる傾向にある。 3 : 変化していない。 2 : 減少傾向にある。 1 : 著しく減少又は認められなくなっている。	3 3	4.5
効率性・妥当性	5 : 著しく効率的に実施できている。 4 : 効率的に実施できている。 3 : 計画どおりに実施できている。 2 : 課題が生じている。 1 : 課題が生じ見直しが必要	4 2	3.7
総合評価	5 : 優先的に継続することが適当 4 : 継続することが適当 3 : 計画変更して継続することが適当 2 : 継続の必要性が低い。 1 : 中止すべきである。	6	4.0

助言・指摘事項等

- ・ 精度高くかつ迅速な病害虫診断技術は産地の維持・発展に不可欠であり、農業試験場の重要な使命の一つとして、果たす役割は大きい。今後とも遺伝子診断可能な品目や病害虫の種類を増加させるとともに、診断技術の高度化が図られることを期待する。
- ・ 遺伝子診断には多量のデータ蓄積が重要であり、また同塩基配列が不詳な場合は、従前からの同定が必須なので、両者を使いこなせる人材の持続的な育成が望まれる。
- ・ 他研究室より研究費が多いが、試薬などが高価なことから、妥当である。

評価項目：5から1でのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

農業総合センター農業試験場試験研究課題 中間評価票

番号	21-中間-3	課題名	3. 病害虫・生育診断と対策指導		
期間	20年度～継続	担当部課室	病虫研究室、化学研究室	評価者	全委員

評価項目	評価の視点	評点 (人)	評価結果 (平均点)
目標達成可能性	5 : 計画を大きく上回って進んでいる。 4 : 計画を上回って進んでいる。 3 : 計画どおりに進んでいる。 2 : 計画より遅れている。 1 : 計画より大幅に遅れており見直しが必要	2 4	3.3
	5 : 阻害要因はなく計画以上の成果と進捗が期待できる。 4 : 阻害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3 : 阻害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2 : 阻害要因が発生している。 1 : 阻害要因が発生しており見直しが必要	4 2	3.7
必要性	5 : 著しく高まっている。 4 : 高まる傾向にある。 3 : 変化していない。 2 : 減少傾向にある。 1 : 著しく減少又は認められなくなっている。	1 4 1	4.0
有効性	5 : 著しく高まっている。 4 : 高まる傾向にある。 3 : 変化していない。 2 : 減少傾向にある。 1 : 著しく減少又は認められなくなっている。	5 1	3.8
効率性・妥当性	5 : 著しく効率的に実施できている。 4 : 効率的に実施できている。 3 : 計画どおりに実施できている。 2 : 課題が生じている。 1 : 課題が生じ見直しが必要	4 2	3.7
総合評価	5 : 優先的に継続することが適当 4 : 継続することが適当 3 : 計画変更して継続することが適当 2 : 継続の必要性が低い。 1 : 中止すべきである。	6	4.0

助言・指摘事項等

- ・産地の維持・発展には、農作物に生じた障害の原因を迅速に診断し、診断結果に基づいた確かな対策指導は必要不可欠であり、診断技術を高度化し、生産者に貢献することを今後も期待するものである。しかし、本課題は農業試験場の本来的・経常的業務であり、県行政の一環として直接県民に接触し情報を提供するという一面と県下における作物の生育状況、病害虫発生状況（新規病害虫の発生動向調査を含む）という重要な側面を持つが、行政対応だけの話であるならば敢えて研究課題に挙げるのは違和感がある。
- ・近年の異常気象の下、これまで殆ど問題とならなかった病虫害や生理障害の発生が憂慮される状況に至っており、異常気象下における県下の作物・植物の異常生育状況のモニター及びその原因究明と対策の立案であるなら極めて重要かつ喫緊の課題なので、今後そのような位置づけと対応を望みたい。
- ・効率的で迅速な障害原因の究明と対策立案システムの構築となれば、研究の領域に含まれるので、診断と対策指導を行った情報をデータベース化し、今後の県内における病害虫・生育診断に広く活用できるシステムとして発展させてはどうか。
- ・年間1,000件の診断を1.94人の人員と30万円の研究費で実施するのは無理ではないか。研究予算をもう少し増加してもよいのではないか。

評価項目：5から1でのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入